
日本伸銅協会 ～2022年重大ニュース～

2022年 12月 23日

① 伸銅品生産量の調整傾向が続く

1～11月の伸銅品生産量は、前年同月比マイナスが続き、累計69.2万トンで、前年同期比▲2.8%となった。暦年の生産量は75万トンを超える見通しであるが、半導体不足、上海ロックダウン（中国ゼロコロナ政策）、ロシアによるウクライナ侵略などの影響から、伸銅品需要は総じて停滞した。ただし主力製品のうち銅条は、3月に単月過去最高を記録するなど、車載向け半導体の好調と端子・コネクタの堅調から高水準が継続した。

② 銅建値が過去最高値後は落ち着くも、円安から国内建値は高止まり

銅の国際相場は、2021年末からの急騰が続きロシアによるウクライナ侵略後の3月には史上最高値を更新、国内銅建値も4月には過去最高値を更新し137万円/トンまで上昇した。年後半は落ち着いたが、円安の進行もあり国内建値等は高止まりしている。他材質への代替の動きに関しては注意が必要である。

③ ウクライナ侵略や円安の影響で、エネルギーや鉱物資源の価格・海上輸送費が増大

ウクライナ侵略後のエネルギー価格急騰と円安による輸入品価格の相対的上昇が、工場操業を圧迫しており、海上輸送費も増大した。また各種鉱物資源も同様に高騰を示した。

④ 中国・韓国を含むRCEPが発効

1月から日本、ブルネイ、カンボジア、ラオス、シンガポール、タイ、ベトナム、豪州、中国、NZの10か国について発効したRCEPは、2月1日と3月18日にそれぞれ韓国とマレーシアが発効し12カ国に拡大した。日中韓3カ国においては初めてのFTAとなり、世界GDPの3割を占める大きな経済連携となった。

⑤ カーボンニュートラル行動計画 2030 年目標の見直しと SDGs への取組みを公表

経団連及び経済産業省のカーボンニュートラル行動計画において、2030 年目標の見直しを行った。エネルギー起源 CO2 排出量を 2013 年度基準で 33 %削減し、41.7 万トン-CO2 以下とする。また目標の見直しに合わせて参加企業も増やし、業界の参加率（カバー率）は生産量見合いで 85 %以上となる。日本伸銅協会では、このカーボンニュートラルへの対応を含め、会員企業の SDGs への取組みを取りまとめ、ホームページに掲載した。

⑥ 日本銅学会の講演大会が、3 年ぶりに実開催

日本銅学会第 62 回講演大会が、10 月 14 日から 16 日の 3 日間、仙台にて開催された。参加登録者数は 191 名で、60 件の講演が行われた。また式典では、経済産業省製造産業局金属課の伊藤金属技術室長のご挨拶のほか、第 56 回論文賞の授賞式及び 2022 年度名誉会員の推戴式が執り行われた。

⑦ 延期されていた IWCC テクニカルセミナーが、初めての WEB 開催

2020 年、2021 年と延期になっていた IWCC テクニカルセミナーが、2 月 28 日から 3 月 4 日の 5 日間、初めてのオンライン（Web）にて開催された。世界 21 か国から 111 名の参加があり、実開催と見劣りしない盛況ぶりだった。日本からは 5 件の発表があり、21 名が聴講した。

⑧ IWCC ジョイントミーティングが 3 年ぶりにローマで実開催

IWCC 合同会議が 5 月にイタリア・ローマで 3 年ぶりに開催された。日本からは電線・伸銅・製錬メーカー・日本伸銅協会から 17 名の参加があった。

また IWCC 理事会も 10 月にロンドンで 3 年ぶりの開催となった。住友電気工業：井上社長、三菱マテリアル：石井常務を含め 8 名の日本人が参加した。

⑨ 東京と大阪での年賀交歓会を、2年ぶりに開催

日本伸銅協会は関係団体と共催で東京・大阪でそれぞれ年賀交歓会を実施しているが、コロナ禍の状況を踏まえ2021年の実施は見送った。1月前半は、行動制限がなかったことから、感染対策を行い、着席形式を採用することで2年ぶりに開催した。

多くの出席者があり、東京では来賓として経済産業省製造産業局藤木局長のご臨席をいただいた。なお、2023年においても同様に東京・大阪ともに開催を予定している。

⑩ 協会表彰式・祝賀会など 3年ぶりに実開催される

日本伸銅協会では 毎年5月の定時総会に合わせて、年度表彰式及び祝賀会を実施している。コロナ禍の影響により、2019年度表彰式典は中止、2020年度は代表者のみによる表彰式のみであったが、2021年度については、感染対策を行い、着席形式を採用することで、3年ぶりに表彰式及び祝賀会を開催した。式典を通じ、受賞者の功績を称えるとともに、関係者の交流の機会を深めることができたと好評であった。

また、日本伸銅品問屋組合連合会との懇談会も、10月14日に3年ぶりに名古屋で実開催し、活発な情報交換が再開された。

⑪ 権田金属工業(株) 権田社長が死去

永年わたり中小会員の代表的な存在として業界の発展に多大なる貢献をされた権田源太郎氏が11月10日に死去された。

日本伸銅協会では、2008年より理事職を務め、2015年度及び2020年度の2期副会長職を歴任、日本銅センターでも監事職を務められていた。社業に加え業界の発展にも尽力されたことで、令和2年春の叙勲において「旭日単光章」を受章された。享年72歳。

⑫ 大手銅管メーカーが親会社から独立

銅管メーカー大手のコベルコマテリアル銅管が親会社から独立し、4月に社名がKMCTに変更された。2019年のNJT銅管と併せ、大手銅管メーカー2社ともに投資ファンドによって新たな経営資源が投入されることとなり、銅管事業の更なる成長が期待される。